



「ざま共創官民連携窓口」 試行設置 補足資料

出会いから始まる共創の物語

～**TRIP** 座間市の実践から～

座間市地域づくり部

ZAMA Living Ecosystem

ZAMA Living Ecosystemとは、入口 (Gate) から始まる共創 (TRIP) が、関係と価値を循環させ続ける本市独自の企業等との協働の世界観です。

ZAMA Living Gate | 出会いから、すべてが動き出す

(座間市共創官民連携窓口)

「ZAMA Living Gate」は、単なる相談受付ではなく、**企業・大学・団体等と行政が継続的な関係性を築き、共に価値を生み出していく“入口”**を意味します。“Living”には、関係が一過性で終わらず、育ち、広がっていくという意図を込めています。

本窓口を通じて、多様な主体が出会い、連携し、新たな取組が生まれる“共創の起点”を目指します。

TRIP | 関わるほど、価値が生まれる共創のプロセス

(共創官民連携プロジェクト)

本窓口では、個別の企画・連携案件 (共創官民連携プロジェクト) を“TRIP”と呼びます。(公式文書では「共創プロジェクト (TRIP)」と併記します。)

TRIPとは、単なる事業実施ではなく、企業・大学・団体等と行政が関わりながら、段階的に価値を創出していく“共創のプロセス”を表現した呼称です。

一過性で終わらない連携を促進するため、あえて“旅”の概念を用いています。

- 本構想は、新たな仕組みをゼロから構築するものではなく、これまでの「チーム座間」における実践と関係性の蓄積・経験を基にしたものです。
- 従来の個別支援を契機として形成されてきた連携を、提案起点・分野横断型へと拡張し、より多様な主体との共創を促進するものでもあります。

「断らない相談支援」と「チーム座間」の実践経験から学んだこと

- ① 出会いが、また次の出会いを連れてくる
- ② 関係は終わらず、広がり続ける
- ③ ひとつの旅が、次の旅につながっていく



(参考) 『誰も断らない
こちら神奈川県座間市生活援護課』
(朝日新聞出版)

① 出会い
(Gate)
相談
提案

【ZAMA
Living
Gate】

② TRIP 1
(最初の1歩)
試行
連携拡大
検証

(共創プロセス)

③ 関係の深化
事業化
実装
関係強化
【成果】

④ TRIP 2
広がり
新たな展開

【新たなTRIP】

令和5年8月1日公表

「令和5年版 厚生労働白書」 コラム「誰もが安心して暮らせる住まいを」事例掲載



コラム 誰もが安心して暮らせる住まいを (神奈川県座間市・NPO法人ワンエイド)

住まいは生きていくために欠かせない「衣食住」の一つだ。ここでは、住まいに困難を抱える方に対する、神奈川県座間市役所とNPOワンエイドの支援の取り組みを紹介する。

中 略

借りる側の金銭管理という課題があり、家計改善といった「支援」が求められる。貸す側と借りる側の困りごとの溝を埋めるため、行政と支援団体、不動産会社、貸主などが顔の見える関係を築くことが大切だと考えている。

このため、今後は、住まいに困難を抱える方の入居を「受け入れる」不動産会社の開拓から、困難を抱える方が「どこに相談すれば良いのかつなぎ先を知っている」不動産会社の開拓へ注力していくこととしている。今後、一層、住まい支援の充実が求められる中で、座間市の新たな挑戦が期待される。



住まいに困難を抱える方の支援を行うワンエイド

出会い（Gate）からはじまった取組が先進事例に至るまでのTRIPの紹介です。

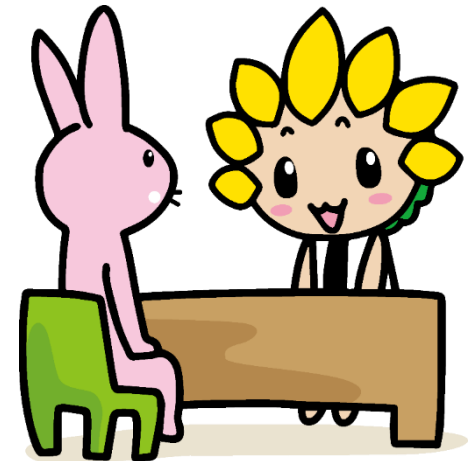
①出会い（Gate）

生活困窮者自立支援制度の開始初年度、制度周知のために支援機関や NPO 法人をローラー訪問したことがあり、その一環で「NPO 法人ワンエイド」を訪問した。この団体は当初、高齢者への生活支援を中心に活動していたが、高齢者のさまざまな生活ニーズに応じていくうちに居住に関するサポートもはじめた団体だった。ワンエイドからは「自分たちの団体も、これまでの取り組みを通じて高齢者や母子家庭等の生活困窮が見えてきており、できることがあればぜひ協力させてほしい」との申し出があった。当時、生活をしのぐための食料の確保について苦慮している頃だったため、フードバンクに取り組んでいただけないかをお願いしたところ取り組んでいただけることになり、それからすぐにフードバンク活動がはじまった。「NPO 法人ワンエイド」との連携はここからスタートした。



②TRIP 1 試行・連携拡大・検証（共創プロセス）

しばらくするとワンエイドと市の自立サポート担当職員が連携して生活困窮者の居住支援を行うことが増えてきた。生活困窮者の居住支援は、単にアパート等の入居相談を行えば済むものではなく、敷金等の入居時に必要な資金の確保、居住を継続できるための収入の確保、多重債務の解決など多岐に及び、包括的な支援が求められる。そうした支援の事例を一件一件積み重ねながら、支援体制の構築に取り組んだ。その結果、支援プランの作成や就労支援等を市自立サポート係や「はたらっく・ざま」（就労準備支援事業）、家計の改善に向けた相談支援を事業委託先の社会福祉協議会、入居相談等をワンエイドが担当し、互いの強みを活かし、それぞれが連携しながら複合的な困りごとを抱える相談者を包括的に支援する「チーム座間」のスタイルが出来上がってきた。



③【成果】事業化・社会実装・関係性の深化

ある時、自立の就労支援とワンエイドによるアパートの入居支援の後、生活が安定し、自立の支援を終結した五十代単身の方が、しばらくして病気のためアパートの自室で亡くなられ、時間がたってから発見されるということが起きた。当時は支援終結時の個人情報取り扱いについて取決めをしていなかったため、市はワンエイドに支援終結について連絡していなかった。一方で、ワンエイド側では、自立相談支援事業が現在も本人と継続的に関わっているものと思っており、支援が終結したと考えていなかったとのことだった。すぐに連絡が取れる身寄りもなく、部屋の残置物などの問題が残されたが、行政の立場でできることは限られ、結局、不動産会社やワンエイドが対応を行った。

ワンエイド代表の松本さんからは、こうしたことがあると、ようやく説得して開拓した大家さんとの関係を失ってしまう場合がある、相談者だけでなく物件の向こう側にいる不動産関係者や大家さんを守ることも私たちの役目、相談支援には終結があるが、住まいの支援はずっと続くというお話を伺った。

不動産事業者や居住支援法人の立場への理解が浅かったことについて深く反省し、かなり落ち込んだが、松本さんから、私たちも行政の立場を理解します、支援に関わるそれぞれが相手の立場を理解して相談者のために手をつなぐことが大事、お互いに頑張りましょうと言われたことが自治体として何ができるかを考えるきっかけとなり、一時生活支援事業や地域居住支援事業の実施に至った。

TRIP 0.0 居住支援

④【新たなTRIP】 新たな連携・拡大

社会福祉で用いられる言葉には「社会資源の活用」という言葉があるが、社会資源は必ずしも福祉のために活用される目的で存在しているわけではないという、考えてみれば当たり前の事実に気づかされた。こうした気づきは福祉と住宅に関する官民連携のプラットフォームである居住支援協議会の立ち上げにつながった。座間市居住支援協議会には地域の不動産事業者や福祉関係者ととともに、本市からは人権・男女共同参画課、市民広聴課、こども家庭課、地域福祉課、長寿支援課、障がい福祉課、生活支援課、都市整備課が参画しており、「居住」を切り口とした多制度連携のプラットフォームを形成し、包括的な居住支援体制の構築に取り組んでいる。

【参考】地域における総合的・包括的な住まい支援の取組事例(座間市)

協議会の概要

○市直営の生活困窮の窓口で、困りごとの内容や相談者の属性を問わない「断らない相談支援」を行う中、居住支援のニーズが顕在化。既に市内のNPOと連携し居住支援を行っていた福祉部局（生活困窮）が主導し、支援に関わる仲間を増やすため協議会を設立しました。

体制図

総合的な相談支援

きつきつなき
「住まいの相談」のほか、「生活相談」に応じの中で住まい支援の必要性が明らかになることも多いので、相談の入口となる窓口を所管する担当課や地域の相談機関は協議会メンバーになっています。複合的な生活の困りごとに「きつきつ」適切な相談先に「つなぎ」、総合的・包括的に居住を支援できることを目指しています。また、相談の中核となる生活困窮者自立支援制度では自立相談支援事業に住まい相談の担当者を配置し、市内居住支援法人に居住支援事業を委託することで支援を強化しています。

住宅と福祉の連携・協働

複合的な課題
借りづらさや住みづらさの背景には、お金や仕事、家族関係、健康などさまざまな課題が絡み合っており、一つの支援だけ解決できるものではありません。相談対応した機関が抱え込むのではなく、チームで対応できるように、協議会では、意見交換を主として、勉強会やグループワークを通じて認識や課題の共有を図りました。多様な属性のメンバーが集まっているので、特に福祉部局が使っている専門用語がお互いを理解するための壁にならないよう、平易な言葉遣いに努めています。

住まいに関する地域資源開発・環境整備

官民の水平的な連携
はじめは、相談支援で受け止めた住まいの困りごとの解決のため、民間への「協力のお願い」を行い連携体制を構築しました。個別の支援を積み重ねる中、民間・行政それぞれに、相手の立場への理解がすすみ、水平的な連携につながりました。

不動産関係者の困りごと
意見交換を重ねるうちに不動産関係者の困りごとと支援機関をマッチングすることが居住支援につながると気付きました。生活課題の支援先を知っている不動産関係者を増やすことも重要だと考え、取り組みについて協議を行っています。

基礎情報 (R7.5.1時点)	
人口 ※1	131,969人
高齢者数 ※1	34,869人
高齢者単身世帯数 ※2	6,635世帯
生活保護被保護世帯数 ※3	2,048世帯

※1 座間市の人口(担当課統計)
 ※2 国勢調査(令和2年)
 ※3 被保護者月次調査

TRIP | 関わるほど、価値が生まれる共創のプロセス

(共創官民連携プロジェクト)

本窓口では、個別の企画・連携案件（共創官民連携プロジェクト）を“TRIP”と呼びます。（公式文書では「共創プロジェクト（TRIP）」と併記します。）

TRIPとは、単なる事業実施ではなく、企業・大学・団体等と行政が関わりながら、段階的に価値を創出していく“共創のプロセス”を表現した呼称です。

一過性で終わらない連携を促進するため、あえて“旅”の概念を用いています。

- **T : Trust** (信頼関係の構築)
- **R : Relation** (関係性の継続・深化)
- **I : Innovation** (共創による革新)
- **P : Partnership** (官民の対等な連携)



チーム座間からの学びです。

『誰も断らない
こちら神奈川県座間市生活援護課』
(朝日新聞出版)

ZAMA Living Ecosystem（全体）

ZAMA Living Gate

（座間市共創官民連携ワンストップ窓口）
新たな取組が生まれる“共創の起点”となる入口

TRIP

（共創官民連携プロジェクト）
個別の企画・連携案件のこと。
単なる事業実施ではなく、企業・大学・団体等と行政が関わりながら、
段階的に価値を創出していく“共創のプロセス”を表現した呼称



① 直接成果

•新規事業 実証実験 サービス導入

② 間接成果

•関係人口の増加 企業との継続関係 庁内連携の深化

③ 潜在成果

•次のTRIPの種 アイデア蓄積 信頼の醸成

ZAMA Living Ecosystemの中で

- ①出会いが、また次の出会いを連れてくる
- ②関係は終わらず、広がり続ける
- ③ひとつの旅が、次の旅につながっていく

ZAMA Living Gateからはじまる、
TRIPの一つひとつが

私たちの財産になります。

